

プログラム会議とプログラム小委員会

岡山天体物理観測所は開所当初より全国の天文学研究者に開かれた観測所として運用されてきた。1962年の本観測開始時から、望遠鏡の使用日程を議論するための会合が召集され、東京大学のほか、東北大学、京都大学の教授も参加して協議が行われた。この会合はプログラム会議として、岡山天体物理観測所が東京大学の施設である間中、毎年開催された。この会合の協議に基づいて、各年度ごとに日程を作成してきた。ところで、1980年代には、観測申し込みの合計が使用可能日数の2倍近くにもなり、日程を短縮したり、合同の観測を設定したりと、やりくりをしながらプログラム編成を行うようになった。

1988年の国立天文台への改組を機に、岡山天体物理観測所は本格的な共同利用へと移行した。すなわち、観測所の運用の基本方針は光学赤外専門委によって協議が行われ、その下に設置されたプログラム小委員会により、共同利用観測の公募や日程の編成が行われるようになった。そして、スクリーニング制により、プロポーザルの評価を行い、年2期（1月 - 6月、7月 - 12月）に分けて、公募を行うようになった。このように、観測所とその設備は、一貫して全国の研究者に開放され、このようなセンターとしての役割を果たしてきたといえる。

歴代プログラム小委員会メンバー

第1期（平成元年～2年）

西村（委員長）、若松、小倉、定金、平田、桜井、前原（幹事）

第2期（平成3年～4年）

若松（委員長）、小倉、定金、平田、桜井、西村、前原（幹事）

第3期（平成5年～6年）

安藤（委員長）、岡村、平田、若松、渡部、山下（卓）（幹事）

ex officio：菊池、桜井、平山、前原

第4期（平成7年～8年）

平田（委員長）、市川（隆）、兼古、中村（泰）、安藤、渡部、山下（卓）（幹事）

ex officio：菊池、桜井、前原

第5期（平成9年～10年）

定金（委員長）、市川（隆）、兼古、長田、渡部、吉沢、吉田（道）（幹事）

ex officio：安藤、桜井、前原

第6期（平成11年～12年）

定金（委員長）、長田、佐藤（毅）、太田、吉沢、市川（伸）、泉浦（幹事）

ex officio：安藤、桜井、前原

注：ex officioとは「施設長、所長等、委員会の運用上出席を要するメンバー」のこと